

製品名: パラフィブロミンウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab15751

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	CDC73 C1orf28 HRPT2
別名	Parafibromin (Cell division cycle protein 73 homolog) (Hyperparathyroidism 2 protein)
遺伝子 ID	79577.0
SwissProt ID	Q6P1J9
免疫原	ヒトパラフィブロミン由来の合成ペプチド。AA 範囲: 51-100

背景

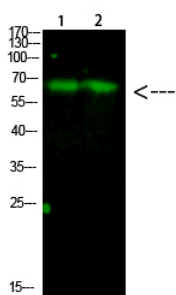
この遺伝子は、転写および転写後制御経路に関与する腫瘍抑制因子をコードしています。このタンパク質は、RNA ポリメラーゼ II サブユニット POLR2A およびヒストンメチルトランスフェラーゼ複合体と会合する PAF タンパク質複合体の構成要素です。このタンパ

ク質は、3' mRNA プロセッシング因子と活発に転写されているクロマチンとの会合を促進すると考えられています。この遺伝子の変異は、副甲状腺機能亢進症-顎腫瘍症候群、家族性孤立性副甲状腺機能亢進症、および副甲状腺癌との関連が報告されています。[RefSeq 提供、2009年7月]、疾患：CDC73 の欠陥は、家族性孤立性副甲状腺機能亢進症 (FIHP) [MIM:145000]の原因です。これは、副甲状腺機能亢進症1型 (HRPT1) としても知られています。FIHP は、高カルシウム血症、副甲状腺ホルモン (PTH) 値の上昇、および単腺性または多腺性副甲状腺腫瘍を特徴とする常染色体優性疾患です。、disease:CDC73 の欠陥は、副甲状腺癌 [MIM:608266]の原因です。これらの癌は、原発性副甲状腺機能亢進症の最も一般的な原因である副甲状腺腺腫よりも、より重篤な副甲状腺機能亢進症の臨床症状を引き起こすのが特徴です。原発性腫瘍の早期一括切除が唯一の治癒的治療法です。、disease:CDC73 の欠陥は、副甲状腺機能亢進症顎腫瘍症候群 (HPT-JT) [MIM:145001]の原因です。HPT-JT は、副甲状腺機能亢進症2型 (HRPT2) または多発性骨化線維腫を伴う家族性原発性副甲状腺機能亢進症としても知られています。HPT-JT は、常染色体優性遺伝性の多発性腫瘍症候群であり、主に副甲状腺腫瘍による副甲状腺機能亢進症を特徴とします。HPT-JT 患者の30%は、主に下顎および上顎に骨化線維腫を発症する可能性があり、これは重度の副甲状腺機能亢進症に伴う褐色腫瘍とは異なります。HPT-JT では、腎病変が両側性嚢胞、腎過誤腫、またはウィルムス腫瘍として発生することもあります。機能：転写および転写後制御経路に関与すると考えられる腫瘍抑制因子。サイクリン D1/PRAD1 発現の制御を介して細胞周期の進行に関与している可能性があります。、配列注意：汚染配列。位置 300 から始まるポリ A 配列の可能性があり。、類似性：CDC73 ファミリーに属します。、サブユニット：PAF1 複合体の一部。RNA ポリメラーゼ II 大サブユニット (RPB1) および LEO1 と相互作用します。ヒストンメチルトランスフェラーゼ活性を持つ Set1 様複合体と相互作用し、ヒストン H3 をメチル化する。BCL9L、CDC73、CTNNB1、PYGO1 との複合体中に認められる。、組織特異性：副腎、副甲状腺、腎臓、心臓に認められる。、

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、がん感受性、腫瘍抑制因子

画像データ



1:1000 希釈の Parafibromin ウサギポリクローナル抗体を用いた 1, マウス肝臓細胞および 2, マウス脳細胞のウエスタンブロット解析 (4°C、一晚)。二次抗体：ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1 時間)